

FROM STUDENTS 学生からのメッセージ

大学院に入学するということ。

高田 俊輔 (大学院1年)

昨年臨床研修を終え、本年度より矯正歯科の大学院1年生として日々、臨床と研究の二足のわらじを履きながら充実した毎日を送っております。今回は、私が大学院に入学を決めた大きな2つの理由についてお話させていただきます。



一つ目は、現在の治療は、全て過去の研究によるデータをベースになされていて、単純で簡単な治療から最先端の治療一つ一つにエビデンスがありますが、大学院での研究ではそのエビデンスを自らが作り上げる喜びを感じられ、臨床の発展に寄与できることは人生で大変貴重なことだと考えたからです。

二つ目は、大学院で研究を通して自分自身が大きく成長できるからです。研究というのは「問題提起・仮説・方法・結果・考察」という柱があり、それを自分で考えてこなしていきます。つまりは自分自身で問題を発見し、解決していく力(リサーチマインド)が身に付くということではないでしょうか。それは日々の臨床において必要不可欠な能力でもあります。すべては患者さんのために最善の治療を提供する(この当たり前のことができるようになるために私は大学院に入学することを決意しました。

後輩のみなさんも是非、大学院にはいって自分を高め、自分に自信を持った歯科医師になりましょう。

地味な練習の積み重ねすら楽しみつつ

平川 智裕 (大学4年)

私はMusic Association部(以下MA)に所属しています。軽音楽に対してあまり良い印象を持ってない方もいるかもしれませんが、派手なライブの裏側には地味な練習の積み重ねがあります。実際、私も手にマメを作りながらの反復練習、何時間もスタジオに籠っての試行錯誤を続けています。でももちろん、練習さえも楽しいのが音楽のいいところですが。



右側が筆者

そんな大変な練習を乗り越えて、私たちMAでは年に二度、夏と冬に演奏会を開催しています。練習の成果を学内、学外問わず多くの人に見てもらえます。ステージの上での興奮は、頭を真っ白にさせてくれる魅力があります。ライブで部員たちはジャンルを問わず、各々の好きな音楽を楽しみながら演奏しますが、その姿は部員の私から見ても魅力的で輝いています。

音楽では、順位などつきませんし、他の部活に比べて結果や、努力の姿は表面に現れにくいかもしれませんが、音楽を通して、私たちは大学生活を忘れることのできない、魅力的な思い出にしていけると思っています。

FROM PARENTS 保護者様からのメッセージ

福歯大生としての自信と誇りを持って羽ばたくんだ!!

この度の東日本大震災で本校の生徒の直接的被害はなく安堵していますが、御親戚、友人、知人で被災された方もいらっしゃるでしょう。心よりお見舞い申し上げます。日頃より、先生方、職員の方々には息子がお世話になりありがとうございます。私も4期卒業生であり、子供が同じ道を目指してくれることに感謝し喜んでおります。役員もさせて頂いてるので(学生共済会、父兄後援会、同窓会)、学生の様子もいろいろと聞く機会があります。私の頃と違い授業も厳しく、学生もきちんと受けております。また、放課後も残って皆で励ましあい、本当によく勉強しております。人を蹴落として自分だけというのではなく、皆で頑張る国家試験合格という、福歯大の気質が受け継がれているのです。男女仲良く、優しい子が多い様に思われます。

さて、近年の国家試験の難化?! いや資格試験ではなく足切り試験には、本当に腹立しく思っております。国家試験の本当の意義は、このレベルでの免許取得という事ではなかったでしょうか? 歯科医が多いから、人数で切る?! 104回の国試結果で言いますと、3,378名受験して合格者は、2,400名(合格率71.0%)。卒業したにもかかわらず、毎年1,000名近く税金も年金も払えない若者を作ってこれが国益でしょうか? ここは、大学側は勿論、保護者側もしっかり、あきらめずに国に訴えていくことが責務です。若者には、免許を与えそれから勝負なのです。

この先大変な世の中になるとの連日の報道には、辟易します。若者に希望の未来を描かせてあげるのが、親、教育者の務めです。そして今、学生は何をすべきか? しっかり勉強し、免許を取り、人の痛みがわかる歯科医師になる、また、口腔医学と言われている近年、口から体全体に及ぼす病気の研究などさまざまな分野で活躍して欲しい。福歯大生よ! 自信と誇りを持って羽ばたくんだ!!



鶴田 勝久 様
(父兄後援会理事)

学生たちに夢を与えていただきたい

福岡歯科大学を卒業してあつという間に28年が過ぎ、50代も半ばにさしかかろうとしています。長女は結婚し1児の母、次女は学業に励んでくれていると信じています。私は5期生になりますが、同級生は平均して4、5年勤務医あるいは大学などの医療機関で研修し、殆どの者が開業医となりました。卒後10年間隔で同窓会を開きたくさんの同級生が集まります。30、40代のころは仕事においてもプライベートでも夢を語り合っていました。近頃は患者数の減少に伴う収入の低下など、前向きな話を語ることが少なくなっています。歯科医師としての将来に対し不安を感じている者も多くなります。特に自分たちの子弟を後継者にすることに対し、否定的な者も増えてきているように思います。私が母校である福岡歯科大学にお願いしたいのは、学生たちに夢を与えていただきたいということです。卒業後に大学の各講座に入局し、専門医として研究、研修し、歯科界をリードしてゆくような人材を育成していただければと思います。私立福岡歯科大学のカラーを出し、その中から各分野のリーダーが生まれてくれば、これほど嬉しいことはありません。同窓生として大学に対してどのような協力も惜しみません。最後になりますが、理事長、学長はもとより各講座の先生方におきましては、学生に対しての細やかなご指導誠にありがとうございます。



古野 宏 様
(父兄後援会副会長)